

地域再生計画（地方創生道整備推進交付金）中間評価調書

都道府県名	島根県		事業実施主体		島根県、邑南町		地域再生計画名		心かよわせともに創る邑南の郷計画					
計画期間	令和３年度～令和７年度		評価責任者		島根県県央県土整備事務所　治山林道課長　加田　英二、邑南町役場　建設課長　小笠原　清									

①地域再生計画に記載した 数値目標の実現状況	指標		基準値		中間目標値			最終目標値		中間評価	達成状況		中間目標値の実現状況に関する評価		
				基準年度		年度	中間実績		基準年度						
指標 1	林道終点から木材市場までの輸送時間の短縮 林道合計 ・林道三坂小林線 ・林道岩屋徳前線 ・林道皆井田円の板線	24.4分 8.0分 10.0分 6.4分	R 2	17.4分 5.6分 7.0分 4.8分	R 5	22.7分 8.0分 9.0分 5.6分	12.2分 4.0分 5.0分 3.2分	R 7	×	×	×	×	1	0	中間目標は達成できていない。物価や人件費の上昇により事業に遅れが生じていることから、進捗状況によっては計画期間の延長も検討する。
指標 2	農林道と主要路線までのアクセス整備、走行環境改善 ・町道高見宇都井線 ・町道道明線 ・町道志都岩屋大林線 ・町道三坂下原線	0m 0m 0m 0m	R 2	150m 150m 150m 0m	R 5	50m 0m 0m 0m	300m 200m 280m 200m	R 7	×	×	×	×	1	0	中間目標は達成できていない。物価や人件費の上昇により、当初計画していた事業の進捗からはかなりの遅れがみられるため状況に応じて計画期間の延長や事業費の見直しを図る。
指標 3	緊急避難・輸送道路の走行環境改善 ・広域農道邑南線	0.00km	R 2	0.55km	R 5	0.50km	1.15km	R 7	×	1	0	中間目標は達成できていない。物価及び人件費の上昇により、当初事業費では目標を達成できないため、計画変更を行い事業費を増額する。			

②事業の進捗状況	事業名		整備量（その他の事業では取組内容）			事業の進捗状況に関する評価
			計画	中間年度（R５）	最終実績見込み	
特別措置を適用して行う 事業	県営林道　三坂小林線	2,000m	210m	2,127m	当初計画に対し、路線延長から見る進捗率は、約10％と遅れが伺える。切盛の土工バランスを路線内で取る必要があり、土工を優先し暫定施工仕上げとなっている区間が多く、工事に遅れが生じているため、必要に応じ、計画期間の延長も視野に入れ、引き続き、計画に則した整備を目指していく。	
	県営林道　岩屋徳前線	2,500m	463m	1,870m	当初計画に対し、路線延長から見る進捗率は、約18％と遅れが伺える。車道の土質が悪い区間があり、追加で土壌改良による路盤対策が必要となり、工事に遅れが生じているため、必要に応じ、計画期間の延長も視野に入れ、引き続き、計画に則した整備を目指していく。	
	県営林道　皆井田円の板線	1,600m	500m	1,600m	当初計画に対し、路線延長から見る進捗率は、約31％と遅れが伺える。切土法面の土質が悪く、崩壊の危険がある区間があり、追加で法面保護対策が必要となり、工事に遅れが生じているため、必要に応じ、計画期間の延長も視野に入れ、引き続き、計画に則した整備を目指していく。	
	町道高見宇都井線（L=300m）	300m	50m	300m	河川沿いのバイパス区間を施工しており、R5までに舗装まで完了した区間のみ実績として計上している。暫定改良延長は180m。補強土壁工に多額の費用を要しており、計画を下回る結果となっている。	
	町道道明線（L=200m）	200m	0m	200m	現在事業実施中の町道高見宇都井線の早期完了を目指し予算配分を行っているため、限られた予算の中で新規路線を実施するのは難しい状況である。	
	町道志都岩屋大林線（L=280m）	280m	0m	280m	現在事業実施中の町道高見宇都井線の早期完了を目指し予算配分を行っているため、限られた予算の中で新規路線を実施するのは難しい状況である。	
	町道三坂下原線（L=200m）	200m	0m	200m	現在事業実施中の町道高見宇都井線の早期完了を目指し予算配分を行っているため、限られた予算の中で新規路線を実施するのは難しい状況である。	
	県営広域農道保全邑南線	1,341m	504m	1,341m	農道整備について、事業の進捗・開設に遅れが生じたことで目標の達成も後半にずれ込む見込みとなっている。	
その他の事業						
計画外で独自に実施した 事業	A級グルメ構想の推進	ここでしか味わえない味や体験を「A級グルメ」と定義し6次産業かを推進し地域の価値を伝えるA級グルメ構想発祥の町として、A級グルメの取り組みを町内外へ情報発信し、“耕すシェフ”の募集や地域と密着した起業家の排出を推進する。			農林商工等連携サポート事業として、地域おこし協力隊に関しては取組開始から令和6年現在まで、61名の協力隊を受入れ、13名が起業した。このうち令和3年度以降は4名が起業、4名が町内で就業している。 A級グルメ構想については、10年間の取組みを通じて一定の成果を認めたことから、令和5年度からは取組みを昇華させ、地産地消の推進に取組んでいる。	
	官民協働の移住促進と定住支援	定住コーディネーターの配置、定住促進支援員の増員を進め、移住希望者へのきめ細かな相談体制の充実を図る。町内外の希望者への住まい提供を目的に空き家のデータベース化や活用推進の対策を官民連携で取り組むシステムを構築する。			定住コーディネーターの配置は継続実施。定住促進支援員の増員は、コロナによる実質活動休止の影響で進んでいなかったため、令和6年度より増員を働きかける。空き家のデータベース化は令和3年度にシステム構築が完了し、インターネット上にて官民で物件情報の共有ができるようになり業務が円滑に進み、移住定住希望者への住まい提供につながっている。	
	おおなん木育事業	木の温かみに触れる住環境の整備を推進し、併せて森林環境の保全や木材の地産地消についても意識の醸成を図る。DIYを活用した空き家や古材再生の可能性を検討する。木材製品や木材産業に携わる人たちのPRの場を創出し、木に関心を持つ人たちが学び体験することで、産業に携わる人材の育成を行う。			森林環境の保全や地産地消の意識醸成を図るため、邑南町の木材を扱う製材業と町に加え石見養護学校と連携し、1歳半検診の対象となる全ての家族に対し町産材で製作した積み木を配布する事業を継続している。今後も継続していく予定で、子どもとその親世代を中心に意識醸成の拡大を図っていく。 DIYを活用した空き家や古材再生について、空き家の改修現場を活用してDIY技術を習得する講座「おおなんDIY木の学校」事業を推進。令和3年度から空き家1棟ずつについて改修を行いながら講座を開催し、人材育成の創出を継続している。	
③評価方法	中間評価委員会を開催し、中間目標値の実現状況に関する評価・検討を行った。					
④中間評価の公表方法	邑南町建設課のホームページ					
⑤計画全体の総合評価	目標１の転入者数については、目標値の２９８人に対し２１３人とかなり下回っている。また、目標２の道の駅瑞穂年間売上高は目標数値３．２億円のところ約３．１億円となっている。ただし、この２つの目標については新型コロナウイルス感染症の流行に伴い数値が減少していたところが、少しずつではあるが戻ってきている傾向にあるのではないかと推測している。 目標３森林整備面積については、目標値の１５９haに対し１３７haとなっている。ただ、目標４の新規林業従事者については３人に対して７人になっており、すでに最終の目標値５人をクリアしている。					
⑥今後の方針等	中間評価結果の反映状況				有りの場合その具体的内容	
	地域再生計画の見直し　（　有　・　無　）					
	令和○年度予算要望額への反映　（　有　・　無　） 有りの場合の増減額　　　　　千円					
⑦今後の方針等に対する 対応	●事業内容の変更の認定申請を予定					